

第6回 多摩市自治推進委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年5月18日（木）午後6時30分から午後8時30分
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員：和田委員長、西川副委員長、島野委員、高澤委員、小城委員、富田委員
- 4 議事：今後の取り組みについて

1 開会

委員長 第6回自治推進委員会を開催する。

2 議事

委員長 前回、今期のテーマが「地域活動に対する気づきときっかけの仕掛け作り」に決定した。本日は、具体的な取り組みについて、意見交換したい。

本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

資料1に基づき、事務局から内容について説明を行った。

何かご質問等はあるか。

皆さんのご意見や取り組み内容について伺いたい。

副委員長 挙げた項目については一例であり、目的は具体的なプロジェクトを実施するというのではなく、どのような内容でも構わず、「市民自身がやってみたい調査」を公募し、それを市民自身が調査する。市民参画になるとともに、その流れを調査することで、「気づきやきっかけ」の答えが出てくるのではないかと思う。

委員 市民の安全のまちづくりの観点から、多くの世代の顔が見ることができたり、分かるとまちとして明るくなり、良いと思う。まち全体だと大きく難しいので、まずは商店街単位で、何か取り組みができれば良いと思う。

委員 まずお土産プロジェクトについては、多くの世代が、多摩市の特産物について調べながら発見したことを市全体に発信していく。制作の過程で意見や協力を得ながら、情報の発信や受信を行うことで、多摩の魅力に気づくとともに、自然と市民参加ができるまちづくりの体制ができるのではないかと思う。

2つ目は、「たまおが行く」の掲載団体に協力していただき、市民参画活動を実施する。体験活動の場を設けることで、互いの団体について知ることができ、またきっかけ作りになるのではないかと思う。

委員 自治というのは、住民だけでなく、大学や企業を含んでいる。現在、大学や企業では地域活動に積極的であり、少子高齢化や地域活性化等いろいろな取り組みを行っている。

多摩市には、大学や本社やその機能を持った企業が多くあり、市民活動ができる施設等があり、市民に開放できると思う。そこが多くの世代が集まる場所になれば良いと思う。市民が集まる場所で何かをする。その一つとして、パソコンのアプリケーション等を利用した教育や遊びを行う。遊びだと楽しく集まることのできるのではないかと思う。

委員 例えば、何かの投票を行うイベントを開催するのも良いと思う。

市民が楽しめるような題材にする。「行政も堅いことばかりではない」と思わせるような内容にする。

2つ目は、映像制作をする。子どもを対象にすると、保護者も興味を持ちやすく参加しやすくなると思う。行政が撮影をバックアップすることで、撮る方、撮られる方もやりやすく、参加しやすくなると思う。

委員

大事なのは、どれだけ市民の興味を引くか、であると思う。

例えば、防災とコラボレーションする。協力して災害食を作る。作る過程も楽しめるし、災害時もおいしいものを食べられる。

それから、避難場所を知らない市民もいると思うので、周知も兼ねて発信する。避難場所でイベント等を行うことで訓練にもなり、地域住民を知る機会にもつながり、楽しむことができ良いと思う。

委員長

本委員会で、どこまで行うのか、ゴールをどこにするのかも決めないといけない。プロジェクトを行うにしても、全部を行うのか、それとも「きっかけ作り」まで行い、それ以降は市民に任せるのか。

市民がどのような活動を行うのか観察するのも良いかもしれない。

委員

「調査して見える化」というのは、面白いと思う。

委員

アンケート等を実施し、集まっていただけの企業や団体を募る。きっかけとして、子どもから大人まで集まれるスペースを作ることができたら良いと思う。

副委員長

本委員会で、市民活動を行うと同時に、委員がそれを観察することが可能であるのか分からないが、調査やプロジェクトを実施する場合には、モデルが必要となってくる。

委員

第五期までの委員会では、市民参画に対する意見がかなり出ていると感じる。今期では、これまでの意見から、何か実際にやってみて獲得できるものがあれば良いと思う。

例えば、学生が押しつけられて参加するのではなくて、「気づいたら、市のこと、自治のことを知っていた」というのが理想である。そのためのアクションをしたい。

お土産づくりは、以前いただいた小学生の提案にもあり、幅広い世代が携わることができるので、何かの「気づきやきっかけ」になるのではないかと思います。

委員

多摩市の紹介やプロジェクトを行うことが目的ではない。市民の声を聞くことができたり、反応してくれるかが問題である。分野によって興味を持つ人の対象も変わってくる。

副委員長

プロジェクトを行うのは、楽しいと思う。ただ、主催者や発信元、またはプロジェクトの内容によって、本委員会で検討すべき趣旨が変わってきてしまう。

委員

何を行うにしても、アンケートは必要ではないか。ただ今まで通りのアンケートを行っても回収率が変わらないと思うので、方法等を考える必要がある。

内容としては、「市でこんなことをやってくれたらうれしい」や「市民の声の実現」であると市民の関心度は上がると思う。また、市民の声の受け取りから、回答、実現までの過程がわかるとより良いと思う。

広報やホームページに市民の声等について、その時々で特集を組んで載せるのも良いと思う。

- 委員 学校を通すことができれば、小中学生や高校生からも多くの意見をもらうことができると思う。
- 副委員長 テーマである「気づきときっかけ」について、「何に気づくのか」ということも考えなくてはならないと思う。
- 仕掛け先は、自治や地域なのか、社会なのか。気づいてほしい人や目的についても委員会で合わせないとテーマが大きなものになってしまう。
- 市民参画の認識は、「社会でいろいろな場面に出会う。自治に参加している感覚をどう持つのか、というところから、自分自身で参加や事項を決めていく感覚を持つことができれば成功」であると思う。
- 委員 「たまおが行く」の掲載団体であるグリーンボランティアについては、掲載に対する効果が無いように感じる。紹介方法や発信の切り口を変えていく必要があると思う。
- 例えば、全戸無料配布は読まれず、少しでも有料にした方が読まれるということがある。価値を出した方が良い場合もある。
- 委員 市民が希望等を掲載できるコーナーがあると良いと思う。例えば、立川市の婚姻届を可愛くした事例があるが、市民の声を実現できると良いと思う。
- 企画政策部長 たま広報に市民のひろばというコーナーがあり、掲載希望団体は、掲載している。多くの申請があり紙面が足りないほどである。
- 副委員長 市民団体が、どのようなツールで発信を行っているのかについて調査することは、「気づきやきっかけ」の発見になると思うし、委員会としての調査としても良いと思う。
- 市内の特定の団体をモデルとして行っても良いかもしれない。
- 委員 「気づきやきっかけ」を市民や団体を対象に片っ端から聞いて回りながら映像にするのも面白いかもしれない。
- 委員 取り組みについて、いろいろな意見が出てきたが、委員会としてどこまで行うべきなのか、現実どこまでならできるのか、を考えなくてはならない。今回のテーマに合ったアクションにしなければいけないと思う。
- 副委員長 例えば、行政発信の強制感のある依頼であると、義務感しか持たず、士気や参加意欲の低下につながる。
- 自分から「こんな活動をやりたい！」でないといけない。活動内容についてはどんなことでも良いと思う。活動を開始したら、本人たちがその活動を呼び掛ける。呼び掛けや誘いは、自信と覚悟がないとできない。その過程を委員がバックアップしながら一緒に考えるのは良いと思う。また、モニタリングすることで、「気づきときっかけ」の発見や成果が見られるかもしれない。
- 「誘う→参加→振り返り→メンバーになる」過程を学べたら良い。
- 委員 新しく立ち上げようとする人たちを募ってモニタリングするのも良いかもしれない。若い団体だとより面白いと思う。
- 企画政策部長 公民館で、市民企画講座を行っている。企画団体等が市と協力し発信から、イベントまで行っている。また市では、団体の立上げ等のフォローも行っている。公民館職員を招いて、話を聞いても良いと思う。

- 委員 発信の方法について、変えていく必要があると思う。
例えば、いろいろな方法で同じアンケートを行ってみる。手法の違いに反応の違いがあるのか調査するもの面白いかもしれない。
- 委員 これまで、ほとんど対象としてきていない、小学生にヒアリングをしてみたいと思う。小学生が感じていること、思っていることから、「気づきやきっかけ」が見つかるかも知れない。
- 委員 プロジェクトを行うとなった場合、「お土産づくり」は良いと思う。前回「手みやげプロジェクト、さくらぼるぼろん」の制作過程における大変だった点等を聞いたため、制作に対するハードルが高くなってしまったように感じるが、これに囚われず、時間や予算をかけずに本委員会の任期内に作りあげる。市民の参加、協力団体をいろいろな方法で募る。その方法を考えることが、「気づきときっかけ」につながれば良いと思う。
- 副委員長 「気づきときっかけ」の仕掛けを作る目的がはっきりしていれば良いと思う。プロジェクトを実施して、市民にとってどんな成果になるのか。プロジェクトの結果で得たアイデア等を行政へ報告する。それが委員会での成果であると思う。プロジェクトを行うだけであると、それは自治推進委員会のやるべきことではないと思う。
- 委員 子どもの将来に対する住民自治への参加まで見据えたものを対象とするのか。それとも対象はやはり大人にすべきか。まずは大人に働きかける方が良いと思う。
- 委員 子どもの意見を取り入れることは良いことだと思う。幅広い世代が参加できる環境づくりが大切であると思う。
- 副委員長 多摩市だけではないが、行政は、これまで主に大人の意見を取り入れてきたと思う。
ここで、子どもの意見を多摩市ではどのように扱ってきたのかを調査するのも面白いかもしれない。
子どもに関する世界調査で、「自分が社会を変えられる」と思っている日本の子どもの数は、世界の子どもに比べてかなり低い。子どもの意見が行政や市民活動でどのように反映できるのか。お土産プロジェクトも、その視点から行えば良いかもしれない。
- 委員長 子どもを対象にすると「気づきときっかけ」にどのようにつながたら良いか。
小学生から高校生まで、または大学生までを対象に、これまで聞いていない層に聞いて調査をする。プロジェクトを実施するにしても、目的や方法で変わってくる。
- 委員 何か取り組むとしても、ある程度絞って行わないと中途半端になってしまう。取り組みについて、目的や効果、課題、方法論など一押ししたい取り組みをもう一度整理して、決定した方が良いと思う。
- 副委員長 目的や効果についても、何が目標値なのかを統一する必要がある。例えば売上なのか、参画なのか、モデル事業で何を発見したいのかを一致させる必要がある。
取り組みのテーマを決めて、児童・学生の参加を呼び掛ける。市民参画という堅いイメージを持ってしまいそうだが、面白そうな内容のものであれば、様々な意

見が出てくると思う。その一環として何かプロジェクトを実施するのは面白いと思う。まずは、自らが動くことが大切だと思う。

委員 今月の議会日より、高校生と意見交換をしたことが記事になっているが、意見交換の内容まで書かれていないので、どんな意見を受けて、議会がどのように反映するのも知りたい。

委員 今日、挙げた意見も含めて、再度、目的や効果等がどう地域活動に対する気づきときっかけになるのかを考える必要があると思う。

そして、どんな意見が市民から出るのか、調査をしてみたいと思う。

副委員長 調査もプロジェクトも手段である。重要なのは何がテーマでそれをどうしたいのかであると思う。

委員長 市民参画を促進するにはどうすれば良いのか。

「気づきときっかけ」とは何か。どんな気づきで何が対象なのか。それを再度考えて、「地域活動に対する気づきときっかけの仕掛け作り」とうテーマの対象も絞っても良いかもしれない。

副委員長 「気づきときっかけ」について、今あるものに出会ったり、紹介をするのか。それとも新しいものを探したり、作るのか。それぞれ目的によって取り組み方法も変わってくるので、委員としてどのような「気づきときっかけ」を描いているのか考え、委員会としてまとめる必要がある。

委員長 次回委員会までに、本日の意見等を踏まえ、再度取り組みについて、目的、効果課題等を考えてきてほしい。

3 その他

企画課 第7回自治推進委員会については、6月に行う。後日調整の依頼の連絡をする。

4 閉会